

# 第3学年 英語科学習指導案

日 時： 平成20年度9月9日(火) 5校時  
学 級： 盛岡市立下小路中学校 3年3組  
(男子22名 女子17名 計39名)  
授業者： 教諭 平 千恵子

## 1 単元名

Unit4 An American Rakugo-ka ( New Horizon English Course3 東京書籍)

## 2 単元について

### (1)教材観

英語の授業を通して、外国の文化や習慣を学ぶことは多く見られる。しかし、自分の国の文化や習慣を、英語の授業を通して知ると言うことは意外と少ないように思う。日本人は外国に目を向けすぎていて、自分の国のことを説明できない民族だと聞いたことがあるが、私もそのように思う。今回の学習指導要領の改訂のポイントの一つに「外国語で発信しうる内容の充実を図る観点から、教材の題材の例として、我が国の伝統文化と自然科学を追加」という文言があるが、自分の国の文化を知ることが、外国の文化をより深く理解できることにつながるし、また自分の国の文化を発信することができてはじめて日本人のアイデンティティーが生まれ出るのだとも思う。

そういう意味でこの単元では、日本独自の文化である落語というものを学習する。またその落語でのオチが日米の習慣の違い、特によくある言語表現の間違いをテーマにしている。日本人としての見識を深めると共に、諸外国への日本文化の浸透についても知ることができると考える。異文化を通して自分の国の文化や習慣を理解、発信することがこの単元の大きいねらいであると考え。こういった観点からも授業を展開し、文法事項の習得のみにとらわれないように心がけたい。

### (2)生徒観

男女の仲が良く、思いやりの心を持ち生活している。なのでペアワークや教え合い学習なども積極的に活動することができる。授業の雰囲気は明るく、「分かって」「英語を聞こう」「英語を話そう」「発表しよう」という雰囲気に満ちている。ただし3年生の2学期であるので、「意欲」と「学力」の二極化も進んでいる。もちろん個人差というのはどこにも存在するわけなので、全員が積極的ではないものの、周りの意欲的な生徒に感化され、自分ができるところは参加しようとする姿勢が見られる。

### (3)指導観

今単元では、疑問詞＋不定詞(how to...) と It is .... for 人 to +動詞の原形. を導入する。私がいつも授業を組み立てる際に気をつけているのは、「普段実生活で自然に使っている日本語」を通して「気づきながら英語表現を学ぶこと」である。「実生活で何気なく使っている日本語」が実は、「疑問詞＋不定詞(how to...)」と「It is .... for 人 to +動詞の原形。」で表現できるのだということを気づかせたい。また、英語落語に関しては、読み取りを重点的に行い、この小話の面白さを味わわせたい。

#### (4) 指導の工夫

本時では、内容理解に視点をあてて、授業を行う。内容がわかり、次のステップとして英語で表現させたいと考えるコミュニケーションをするための、アメリカ人と日本人の考え・行動・習慣の違いを理解することをコミュニケーションの前提とする。

### 3 単元の目標

- (1) 不定詞の特殊な用法(疑問詞＋ to 不定詞、It is ...to ＋不定詞)を理解し、適切な場面で運用することができる。(言語)
- (2) 落語の楽しさや英語の落語のユニークさなどを本文から読み取ることができる。(理解)
- (3) 落語を通して、日米文化や表現の違いについて関心を持たせる。(関心・意欲・態度)
- (4) 内容の面白さが伝わるように音読をする。(表現)

### 4 指導計画及び単元の評価規準(別紙)

#### 5 本時の目標

- ① 落語の文化的な側面や食事の注文方法の日米の違いについて理解できる。
- ② 本文の内容に興味・関心を持ち、内容を理解しようと意欲的に読むことができる。

#### 6(1) 本時の評価規準と具体的評価規準

	評価規準 (観点)	評価場面 (方法)	Aの状況例	Bの状況例	Cへの手だて (支援)
聞く こと	聞いた内容について正しく聞き取ることができたか。 (理解)	教科書本文の聞き取り	聞き取った英文の意味がわかる。	聞き取った英文を言うことができる。	・英文を再度繰り返す。
話す こと	間違いを恐れずに英語で積極的に話すことができたか。 (関心・意欲・態度)	Warm-upでのQ&A	プリントを見ないで応答することができる。	プリントをほとんど見ないで応答することができる。	・机間指導をして会話の進まないペアを手助けする。
読む こと	なぜ、お腹が減ったまま過ごしたのか、理解できたか。 (表現)	教科書本文の音読	場面に応じた感情を込め、正確な発音やイントネーションでスムーズに音読することができる。	ややスムーズさには欠けるものの、ほぼ正確な発音やイントネーションでスムーズに音読することができる。	・躓いている箇所を反復させる。
書く こと	本文の内容に関する質問に対して答えを英語で書くことができたか。(表現)	Q&A	正確な英文で答えることができる。	単語で答えることができる。	・何を聞かれているかヒントを与える。

(2) 本時の展開

段落	学習内容 (教師の支援)	生徒の学習活動	指導・支援の留意点
導入 10分	1 Greetings	1 挨拶をする	1 元気に行う。
	2 Warm-up	2 ペア活動でのQ&A	2 プリントをなるべく見ずに、相手の目を見て応答させる。
展開 35分	3 Oral Introduction	3 PCを見ながら英文を聞く。	3 全員が見ていることを確認してから説明をする。
	4 学習課題を提示	4 本時の学習課題を把握する。	
	クラウリーさんは、レストランでなぜお腹が空いているのか？		
	5 新出語句の確認	5 新出語句を音読練習し意味を確認する。	5 テンポ良く行う。
	6 概要把握	6 読み取りのポイントを踏まえ本文の概要を把握する。	6 始めに読み取りのポイントを与える。
	7 音読練習	7 教科書を見ながら音読練習をする。	7 読み取った要点をすらすらと音読できるように支援する。
	8 内容理解の確認	8 Q&A この小話の面白さを把握する。	8 日本語で表現させる。 可能なら英語で表現させる。
	9 発表	9 小話の面白さを伝える。	
	10 自己評価	10 自己評価をする。	
終末 5分	11 宿題の提示	11 宿題を確認する。	
	12 Greetings	12 挨拶をする	